



東部クリーンで爆発事故

修理中、溶接の火がコンベアーに引火か？



⑩ 4階南側外観



写真左2枚は環境部撮影、右1枚は岐阜新聞10月24日の朝刊です。報道によれば、23日午前10時40分ごろ岐阜市環境部東部クリーンセンターで火災が発生。2Fで点検業者が溶接作業中にベルトコンベアーに引火、4Fの絶縁油にも引火し、爆発（CBCテレビ放映）を起こしたと思われます。鎮火は夜7時を過ぎ、約10時間の火災に。

当日、明郷小学校（本郷地区）4年生の見学中でしたが、非難して無事。爆発時、非難して爆発箇所に職員等人はいなかったこと、消防職員も外部からの消火活動中で爆発に直接遭遇しなかった模様。けが人は出ませんでした。

機械には危険が常に存在することを再確認しなければ。過去に、東部クリーンでは転落死亡事故、寺田プラントでは硫化水素死亡事故、掛洞プラントでも転落死亡事故、プロパンボンベ爆破事故等々、其の度に「再発防止」が語られますが、「人命を最優先」に、安上がり行政に陥らない、再確認の機会を逃してはいけないと思います。また、工事方法を削減したが、結果は高額出費では・・・。

連絡先 岐阜市議員 松原のりかず 岐阜市沖ノ橋町1-21 でんわ 253-2500

『あわよくば使って・・・』と謝礼5万円？

「ある教科書会社の編集者は『あわよくば使って（教科書）ほしいという下心はあっただろう』と推測する。」と岐阜新聞で報道（10月31日朝刊）された「報告課題 教科書発行者の中学校英語教科書の編修会議への参加事案について」なる文書が、FAX（30日夜）されてきました。

既に、夕方の全国放送で文部科学大臣の会見「採択の公正性を揺るがしかねない」嚴重注意した。や、三省堂社長への取材がテレビ各社で繰り返し放送されていました。旅費、飲食費、宿泊費を三省堂が負担した「編集会議・平成26年8月23日」に参加した校長らは11人。（上記費用以外に各人へ謝礼5万円）

その内5人が採択に関わる教員となり、1人が岐阜市教員。その人は小学校勤務（編集会議当時）から本年度4月に市内中学校の校長へ異動。6月に「岐阜市立義務教育諸学校教科用図書採択調査研究会英語部会」の「主任研究員」になっています。

9月25日（議会開会中）に県教育委員会から本事件への調査依頼。9月28日、30日、10月9日に教育長と学校指導課長が本人に「事実確認と指導」を行なったと記載（FAXに）されています。28、30日は9月議会開会中、10月9日は文教委員会視察中で委員会全員が協議可能でしたが報告はなかったようです。指導課が英語部会調査研究員5人の内の当該校長以外の4人に調査。「採択に恣意的な影響を与えなかった」と記載（FAX）されています。信じ難いが・・・。

「疑念を抱かせる行為ともとられるため、今後については県教委と相談していく」と記載。謝礼の5万円は、全国報道で「既に返した」人の報道もされているが、岐阜市教委は新聞報道で「謝礼については教育公務員特例法に基づき、『広く許されている』と説明」とあり、「返還」明言は無い。市教委調査（9月28日～）で「返還」への「指導」は無かったのか。先の人権問題と同様に、市教委の危機管理と主体性が問われる。

処分は未定。市民から「園児のために使った保育士」が「停職」なのに、「自分の懐に入れて・・・」と電話がある。市長の白山自治会費での飲食も不明のままである。



松原のりかず
☎058-253-2500